

日本原子力学会核燃料部会

平成16年第1回運営委員会議事録

日時 : 平成16年5月19日(水) 10:30~12:30

場所 : 日本原子力学会 事務局会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、森副部会長、伊東委員、大沢委員、平井委員、北村委員、木下委員、木原委員、佐藤委員、萩委員、林委員、藤田委員、米田委員、和田委員

議事

1. 前回議事録確認

北村委員より前回議事録(資料1)は運営委員各位には既にメールにてご確認頂き、HPで公開されていることが報告された。誤記が指摘されたため訂正し承認された。

2. 平成16年度運営委員について

北村委員より平成16年度の運営委員会の業務分担、及び各業務担当者の紹介がされた。また、北村委員よりNFDの緒方委員から平井委員への委員交代、及び須田委員(MMTL)から萩委員(ZP)への委員交代が報告され、承認された。また、未定であった2005年の国際活動委員は電中研とJNESとなった。

・平成16年度運営委員業務分担

夏期セミナー幹事	[北海道大]佐藤委員 [GNF-J]伊東委員
庶務幹事	[北海道大]佐藤委員 [東京電力]北村委員
広報 (HP) (部会報)	[東北大学]塩川委員 [JNC]木原委員/庶務幹事 [ジルコプロダクツ]萩委員
国際活動	森副部会長 [電中研]木下委員 [JNES]林委員
国内企画	[九州大学]杉崎委員 [電中研]木下委員
評議委員	森副部会長 寺井委員

・2006年までの担当(2002.1.16運営委員会で協議、2002.3.29運営委員会で決定)

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
夏期セミナー幹事	東京大学 JNC	名古屋大学 原研	北海道大学 GNF-J	東北大学 MHI	大阪大学 JNFL
庶務幹事	九州大学 GNF-J	京都大学 MMTL	北海道大学 東京電力	名古屋大学 ZP	東京大学 中部電力
広報(HP) (部会報)	京都大学 JNC	大阪大学 JNC/庶務幹事	東北大学 JNC/庶務幹事	九州大学 JNC/庶務幹事	名古屋大学 MMTL
国際活動	関西電力 副部会長 電中研 NUPEC	四国電力 副部会長 電中研 NUPEC	ZP 副部会長 電中研 JNES	日本原電 副部会長 電中研 JNES	副部会長
国内企画	東北大学 NFD	東京大学 NDC	九州大学 電中研	京都大学 JNES	北海道大学 NFD
評議委員※	副部会長 岩田委員	副部会長 岩田委員	副部会長 寺井委員	副部会長 寺井委員	

3. 平成16年夏期セミナー企画立案状況について

伊東委員から資料3にて報告された。

## 【全般】

現地視察により会場設備、宿泊施設として基本的な問題はないことが再確認されたが、下記の改善箇所が挙げられた。

- ・プロジェクトは照度不足であり、別手配で持ち込む方が経済的と考えられる。
- ・JR洞爺湖からホテルまでの交通が不便であるため、新千歳空港からチャーターバスを手配することを計画(行き:13時と16時の2便、帰り:土曜9時)している。

## 【講演プログラム】

・講演プログラムのうち外国人講師(マッケ先生)は断念するとの報告がされたが、アジア(台湾やインド)で費用をかけずに呼べるのであれば親睦を深めるためにも呼ぶ方がよいのではないかという意見があり、10万程度で招聘可能な外国人講師を再検討することとなった。

・セッション4の燃料・材料の基礎研究については、3件の予定であったが2件となった。

出来れば100名の参加を希望しており、今後参加者の確保のためのフォローアップをする。北海道であるため航空便の早めの予約が必要であるが、航空便の予約をしてから出席の確認をするプロセスの方がよいので、学会のメーリングリスト等でアナウンスをすることとなった。

## 4. 軽水炉燃料専門家会議(2005年)開催について

木下委員から軽水炉燃料専門家会議について口頭にて紹介された。

・近々プログラムの大まかな項目をアナウンスする必要があるであるが、プログラム委員会設立準備のために予備的な検討を行い委員の名前があがっている状態であり、6月中にプログラムをつくり、Call for papersを出す予定である。

・覚書については欧州・米国・日本(アジア)の3極持ち回り開催について韓国の了解が得られ、3極の覚書に韓国を加えた新たな覚書の素案ができあがった。4月の段階で米、欧の原子力学会に問い合わせしており、欧州原子力学会の会長の確認段階にある。今後は欧州原子力学会ベルtrand氏からOKができれば印刷し、回覧することとなる。

山脇部会長より中国原子力学会にも覚書に入ってもらうことについての現状説明がされた。連絡担当者に説明をして、メール等でフォローアップをしている段階であり、順番としては日本と中国の原子力学会の協力協定を結び、その後韓国に続き、中国も軽水炉燃料専門家会議に入ってもらうことになる。

## 5. 部会HPについて

木原委員から資料5にて報告された。

前回(平成16年3月31日)以降の改訂内容は次の通り。

- ・運営委員会の名簿の更新:4/9更新
- ・運営委員会議事録(3/31)の更新:4/30更新
- ・運営委員会総会議事録(3/31)の更新:5/12更新
- ・16年度核燃料夏期セミナー開催案内:5/12更新
- ・核燃料部会報2月号目次:5/12更新

今後の予定は次の通り。

- ・核燃料部会運営委員会議事録(5/19)の更新
- ・メーリングリストへの部会委員登録

HPへは下記要望があった。

- ・他の部会と比べて精力的なHPとなっているのか。
- ・一般社会への情報発信は意図したものになっていないのでは。
- ・部会に入ろうとしている人のためにもHPは充実させるべき。

以上を踏まえて、木原委員の方で改訂を検討することとなった。また、HPの新陳代謝をすることが重要であり、運営委員会毎にHPに載せる議題を提案して、木原委員に適宜連絡することとなった。

## 6. 学会秋の大会での企画セッション及び来年春の大会での合同セミナーについて

秋の大会の企画セッションについて木下委員より資料6を用いて報告された。

- ・講演は2件で、原電は出澤氏、JNCは大島所長にお願いをして内諾していただいている。
- ・企画セッションの日程については、2日目の昼に総会を開き、午後に企画セッションを行うことを学会に依頼している。企画セッションに合わせ、運営委員会を2日目のAMとすることで北村委員が学会に問い合わせることとなった。

今後の海外との合同セミナーについて森副部長から資料6-2にて報告された。合同セミナーについての核燃料部会としての考え方が確認された。

- ・学会からの今年度の支援金が来年度も続くとは限らず中国を含めると負担になるため、韓国を合同セミナー相手先の基本とし、中国は予算に余裕があるときに招聘する。
- ・セミナーの主要テーマは当番部会がまとめ役となる。(次回セミナーの主要テーマのまとめ役は核融合部会であるが、経験のある核燃料部会も協力する。)
- ・主に担当する部会の考え方は3部会持ち回りで当番部会を定め、3部会各々が主要テーマを参考に1名ずつ推薦する講師を招聘する。
- ・費用については、基本コースの費用を3分割し、それ以外に各部会が特別にアレンジする日程部分は、その部会の負担とする。
- ・基本コースのアレンジは、当番部会が担当する。基本コース以外のアテンドは、各部会が行う。韓国以外の講師を招聘するときは、3名であれば上記の考え方にに基づき、3名以下の場合各部会がアレンジする。
- ・Proceedingsは当番部会の作成とし、費用は3部会の当分負担とする。

また、前回のProceedingsが余っているので、有料で売ることを検討する事となった。

## 7. 学会誌への連載講座について

森副部長から資料6にて報告された。

- ・5月号から連載開始する予定で、準備を進めている。
- ・トーンを合わせる作業などにかなり時間を要するので執筆者の方は早めに執筆し、原稿は余裕を持って提出してもらいたい。また、新人のための教科書的なものであるから、易しい文章としてもらいたい。
- ・原稿は16枚が目安であり、製本すると5ページ程度となる見込みである。

## 8. 核燃料部会の平成16年度予算及び平成15年度決算補正について

北村委員より資料8を用いて報告された。前回の運営委員会で報告された平成15年度決算について、部会報の印刷と発送が遅くなったため、平成16年度の費用として計上されることとなった。その結果、H15年度収支差額は384,094円(収入593,629円-支出209,535円)となり、H16年度に繰り越された。したがって、平成16年度の実績予想は通信費・発送費及び会報印刷費を2回分計上した(通信費・発送費164,000円、会報印刷費306,000円)旨報告された。

会員数の増減についても今後報告するようコメントがあり、次回北村委員より報告することとなった。

## 9. 旅費・謝礼等の内規について

北村委員から資料9にて学会内規が紹介された。材料部会の内規を参考にしているが、もう少し融通性のある規則にする方がよいという意見があり、学会の内規を参考として用語の統一等、文章の修正を行い、再度案を作成しメーリングリストで確認することとなった。

## 10. その他

森副部長から資料10-1を用いて、核燃料部会の活動(基準、規制関係)の案について提案され、議論がなされた。テーマ案としては4つほど挙げられたが分科会、WGとの関係、標準委員会等のすでに活動している活動との調整、すでにある専門部会報告書等との関係など検討する必要がある。

議論の中で「燃料の高燃焼度と廃棄物処理の関係」がテーマ案として挙げられた。燃料は高燃焼度化が進められ実績もあるが、廃棄物処理の観点からすれば得策とはいえない面もある。高燃焼度化に対応した廃棄物処理を考えるべきで、学会の中で議論すべき大きな課題という意見である。

一方、学会での議論で高燃焼度化と廃棄物処理の最適解をだすのは難しいため、シンポジウムなどで議論するのがよいのではという意見もあった。継続して議論が必要なため、夏期セミナー時にも議論をすることとした。

また、部会報の「会員の声」で若い人はよく見かけるが、シニアの方々の執筆があれば良いのではとの提案があり、部会報委員で検討することとなった。

#### 今後の予定

- ・平成16年度第2回運営委員会 夏期セミナー時(平成16年7月15日昼食時)
- ・平成16年度第3回運営委員会と会員総会  
平成16年9月15日～17日 秋の年会時(於 京都大学:2日目で学会に希望)
- ・平成16年度第4回運営委員会(平成17年12月または1月開催予定)

以上

---

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

### [過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)